

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④ 年度	学 期	⑥
年 次	⑤ 年次	授業回数	⑦ 回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。
実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。
※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4月～9月
後期・・・10月～3月
通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか
授業方法・・・講義、演習、実習など
課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

授業科目名	生物学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	生物学は医学や生理学、人体の構造や機能を理解するための最も基本的な知識を学ぶ科目です。人体の最小単位は細胞であり、さらに組織、器官、器官系と人体が有機的に統制されて生命体になることを理解します。		
授業科目の到達目標	1. 細胞の構造と機能を説明できる 2. 細胞分裂、遺伝、DNA について説明できる 3. 臓器の構造とはたらきについて説明できる 4. 神経系、感覚器について説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	生命の起源と進化	講義	予習・復習 進化論
2	細胞の構造と機能 植物細胞と動物細胞 教科書 P 2 ～ P 11	講義	細胞壁 液胞
3	細胞の増殖 細胞分裂 体細胞分裂と生殖細胞分裂 教科書 P 1 2 ～ P 1 3	講義	減数分裂
4	遺伝 メンデルの法則 DNA セントラルドグマ 教科書 P 1 4 ～ P 1 6	講義	優性の法則 分離の法則 独立の法則
5	人体の構造とはたらき 組織器官 器官系 消化器 教科書 P 1 6 ～ P 2 1	講義	消化酵素 柔突起とリンパ管
6	呼吸器系 循環器系 泌尿器系 内分泌系 教科書 P 5 0 ～ P 2 7	講義	胚循環 体循環 ホルモン
7	大脳 神経系 感覚器 教科書 P 2 6 ～ P 2 7	講義	シナプス 神経伝達物質
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	イラストでわかる 歯科医学の基礎
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	

この授業科目から発展する主な科目	生理学、臨床検査
成績評価の方法	定期試験 出席 授業態度
その他 受講生への要望等	遺伝の仕組み DNAについて理解する。 人体を細胞、組織 器官、器官系として有機的に理解する。

授業科目名	総合基礎		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単位数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	基礎数学と文章表現の 2 本柱で進む科目です。 基礎数学は予防処置や保健指導をする際にフッ化物の濃度の計算ができるようにするための学習です。 文章表現は歯科医院で、患者さんに対応する際や電話応対する時に美しい日本語で話せるようにするための学習です。		
授業科目の到達目標	1. 四則演算の意味を理解し、正確に計算が出来るようにする 2. 単位の意味を理解し、的確に単位表示ができるようにする 3. 割合、平均、濃度を求める計算ができる 4. 主語と述語、句読点の使い方などの文章の基本を習得する 5. 文章を理解する 6. レポートを適切に書くことができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	足し算、引き算、掛け算、割り算の基礎	講義	振り返りテスト宿題・
2	文の構成	講義・例文・テスト	プリントの復習
3	文節・単語・熟語・四字熟語	講義	プリントの復習
4	文章表現・主語と述語	講義・熟語作成	プリントで作成宿題
5	小数、分数の計算	講義	プリントの復習
6	文章表現・修飾語と被修飾語・敬語	講義・例文・テスト	プリントの復習
7	割合（百分率・歩合）	講義	プリントの復習
8	平均	講義使い方テスト	プリント復習テスト
9	文章表現・言葉の意味と使い方・並立・補助	講義	プリントの復習
10	濃度・中間試験	講義・筆記試験	プリントの復習
11	文章表現・自立語・文章の理解	講義・テスト	プリントの復習
12	水溶液の計算（％、p p m）	講義	プリントの復習
13	復習・練習問題	講義・例文テスト	プリントの復習
14	フッ素の中毒量の計算	講義	プリントの復習
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	教務作成プリント 中学国語の総復習から抜粋 数研出版 とにかく基礎数学
参考書・資料 等	くもん出版 中学国語の総復習 教育出版 教科書ワーク算数
この授業科目の前提となる主な科目	国語・数学

この授業科目から発展する主な科目	保健指導論、う蝕予防法
成績評価の方法	筆記試験、授業態度、宿題提出
その他 受講生への要望等	言葉の使い方、敬語の使い方を学んで活用できるようにする。濃度の計算ができるようにする。 復習をきちんとしましょう。

授業科目名	情報科学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	通年(前半)
年 次	1 年次	授業回数	15 回(前半 8 回)
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間(前半 15 時間)
授業科目の概要	情報に関する基本的な事柄を理解し、患者に関する情報の種類・重要性・取扱い方法について理解することを目的とした科目となります。 基本的には、パソコンの基本操作を修め、情報器具を活用した論文作成やプレゼンテーションを行う能力を身につけます。さらに、歯科衛生士として働く上で最低限必要な知識が実践できるよう演習により学習します。		
授業科目の到達目標	1. 統計的な基礎知識を身につける 2. 研究に必要な統計手法を活用できる 3. 統計資料をみて推計解釈ができる 4. Word を用いて、基本操作法を学習しビジネス文書を身につけることができる 5. 統計的な考えかたが理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	インターネットの使い方 タイピングの練習（日本語入力の早打ち）	講義 演習	タイピングの練習
2	日本語入力、文書の移動・コピー、ビジネス文書作成 キーワード：1 バイト文字・2 バイト文字、半角・全角	演習	簡単なビジネス文書（練習 15） タイピングの練習
3	Word 表を活用した文書の作成① キーワード：文字修飾、表、罫線	演習	簡単なビジネス文書 （練習 18,19）
4	Word 表を活用した文書の作成② キーワード：表、罫線	演習	罫線表を含むビジネス文書 （実習 5,6）
5	Word 画像を利用した文書の作成 キーワード：罫線表、ワードアート、クリップアート	演習	図表を含むビジネス文書 （実習 7）
6	Excel データ入力、ワークシートの基本的な扱い キーワード：数式、関数（SAM）	演習	表作成と合計値の計算 （実習 10、11）
7	Excel 関数の取扱、罫線の設定 キーワード：SAM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT	演習	平均、最大、最少等の関数 （実習 12、13、14、22）
8	定期試験	試験	

使用テキスト	30 時間でマスター Office2010
参考書・資料 等	必要に応じて、講義中に補助教材を配布する。
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	

成績評価の方法	試験及び各回に出題する課題の提出にて評価を行う。 但し、出席回数が規定に満たなかった者は評価対象としない。
その他 受講生への要望等	演習科目の為、毎回において課題作成に積極的に参加し課題を達成することが求められます。 教員が提供する話題以外でも、普段、コンピューターに関して疑問に思っていることがあれば直ちに質問し解決されることを望みます

授業科目名	情報科学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	15 回(後半 8 回)
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間(後半 15 時間)
授業科目の概要	情報に関する基本的な事柄を理解し、患者に関する情報の種類・重要性・取扱い方法について理解することを目的とした科目となります。 基本的には、パソコンの基本操作を修め、情報器具を活用した論文作成やプレゼンテーションを行う能力を身につけます。さらに、歯科衛生士として働く上で最低限必要な知識が実践できるよう演習により学習します。		
授業科目の到達目標	1. 統計的な基礎知識を身につける 2. 研究に必要な統計手法を活用できる 3. 統計資料をみて推計解釈ができる 4. Word、Excel、PowerPoint を用いて、基本操作法を学習しプレゼンテーションやドキュメンテーションの作成に役立たせることができる 5. 統計的な考えかたが理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	Excel グラフの作成 キーワード：棒グラフ、円グラフ、ピクチャグラフ	演習	グラフの作成演習 (実習 24、25、26、27)
2	Excel セル参照、ソート、オートフィル、順位付け キーワード：相対参照・絶対参照	演習	相対参照、絶対参照の演習 (実習 34、35、36)
3	Word と Excel の活用 キーワード：条件付き書式、リンク貼り付け	演習	Word と Excel の活用 (実習 41、42、43、44)
4	PowerPoint スライドの作成① キーワード：レイアウト、文字修飾、ワードアート	演習	
5	PowerPoint スライドの作成② キーワード：アニメーション、SmartArt	演習	
6	PowerPoint スライドの作成③ キーワード：オートシェイプ、表、グラフ	演習	
7	PowerPoint スライドの作成④	演習	プレゼンテーション作成演習 (実習 45)
8	定期試験	試験	

使用テキスト	30 時間でマスター Office2010
参考書・資料 等	必要に応じて、講義中に補助教材を配布する。
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	

成績評価の方法	試験及び各回に出題する課題の提出にて評価を行う。 但し、出席回数が規定に満たなかった者は評価対象としない。
その他 受講生への要望等	演習科目の為、毎回において課題作成に積極的に参加し課題を達成することが求められます。 教員が提供する話題以外にも、普段、コンピューターに関して疑問に思っていることがあれば直ちに質問し解決されることを望みます

授業科目名	コミュニケーション学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	コミュニケーション学は意思疎通の相互作用で人間関係、信頼関係を作り上げる基本です。医療系教育に重要な技術であり、対象となる患者はもとより、ヘルスケアチームの一員として基本的技術の習得を身に付けます。また、多職種の連携においても知識だけではなく実践できる技術として学びます。 国際化に伴い、外国人の患者も増加の傾向にあることから、基礎的な英会話でコミュニケーション能力を身につけ、他国で生活する患者の気持ちを和らげることができるようにします。		
授業科目の到達目標	1. コミュニケーションの重要性を説明できる。 2. チーム医療・連携に必要なコミュニケーションを習得する。 3. 安全、安心、安楽に業務遂行できるコミュニケーション能力を習得する。 4. 自分自身の役割を意識して、協働する仲間と良好な関係を構築できる。 5. 障害や疾患の状態に応じた良好なコミュニケーション技法の選択を行える。 6. 基礎的な英会話によるコミュニケーションを習得する。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	コミュニケーションとは何か ・ファーストコンタクト 第一印象 自己紹介 ・コミュニケーションの概要	講義 演習 独自プリント	第一印象を表現する
2	人間関係の中の自己と他者 ・ジョハリの窓とは 【キーワード】 自己理解・他者理解	講義 演習 独自プリント	良好なコミュニケーションについて考察する
3	対人距離とノンバーバルコミュニケーション ・パーソナルスペースとは 【キーワード】 非言語的コミュニケーション 対人距離	講義 演習 独自プリント	コミュニケーション特性について考える。
4	自己の価値観と他者の価値観・自己覚知について ・価値観とは 【キーワード】 自己覚知・価値観	講義 演習 独自プリント	自己の価値観について考察する。

5	対人援助の基本 ・ 人間関係の形成と発展 ・ 援助的態度の視点と姿勢 【キーワード】 受容・共感・傾聴	講義 演習 独自プリント	対人援助について考察する。
6	面接技法について ・ 面接の意義 ・ 面接の留意点 【キーワード】 面接環境・守秘義務・沈黙の意味	講義 演習 独自プリント	面接の留意点について
7	IPE（多職種連携）について ・ 多職種連携の意義 ・ 自身の専門職の特性 【キーワード】 多職種・歯科衛生士・	講義 演習 独自プリント	試験範囲について
8	試験		
9	挨拶・カレンダー・時計・教室で必要な会話		挨拶・カレンダー・時計・教室で必要な会話
10	「患者さんへの診療中の指示、説明」導入 全体練習	講義・演習 リスニング	復習 課題プリント
11	「患者さんへの診療中の指示、説明」 全体練習	講義・演習 リスニング	復習 課題プリント
12	「ブラッシング」導入 全体練習	義・演習 リスニング	復習 課題プリント
13	対象別に応じたコミュニケーション 【キーワード】 高齢者、小児、障害者	講義 演習 独自プリント	復習 課題プリント
14	コミュニケーションの総括 実習臨地・臨地実習 日常生活における円滑なコミュニケーション技術	講義 演習 独自プリント	復習 課題プリント
15	試験試験	筆記試験	

使用テキスト	独自プリント
参考書・資料 等	医歯薬出版「みがこうコミュニケーションセンス・デンタルスタッフのクリニカルマナー」 医歯薬出版「事例から学ぶ歯科衛生士のグッドコミュニケーション」 デンタルダイヤモンド「歯科衛生士のためのお仕事マナー」 医学書院「看護コミュニケーション」より抜粋

	「安全な実習のための医療・接遇とコミュニケーション」
この授業科目の前提となる主な科目	国語
この授業科目から発展する主な科目	診療補助 保健指導
成績評価の方法	定期試験、レポート課題の提出、内容 演習への参加状況
その他 受講生への要望等	・講義と演習を振り返りながら、「コミュニケーション」について考えていきましょう。授業では、グループワーク、ロールプレイを取り入れます。積極的な発言と参加を期待します。なお、グループワークなどで知り得た他者の情報の取り扱いには十分に留意してください。 ・リスニングを何度も繰り返し聞いて、英語を聞き取れるようになるまで学習しましょう。 ・英文が自然と発せられるまで繰り返し練習しましょう。 ・文章の筆記は記憶が残るので必ず自分で書いて覚えましょう。 ・歯科医療現場で働く一員として必要とされるようになりましょう。

授業科目名	解剖学		
実務経験講師	○	実務経験	臨床検査技師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	歯科衛生士に必要な全身の人体構造と機能について系統解剖学的に学び、口腔衛生が全身疾患と極めて密接な関係にあること理解する。また、本講義では CT や MRI 画像を利用した画像解剖学を積極的に取り入れ正常構造だけではなく病態について理解する。		
授業科目の到達目標	1. 系統解剖学的に各器官の構造と機能について図を描き説明できる 2. 系統解剖学を通じて口腔衛生の重要性を説明できる。 3. CT や MRI 画像から各器官の位置を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	II 編構造と機能 第 1 章 P46 から P82 運動器系 ①骨格系 ②筋と運動	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：骨・骨格筋・平滑筋
2	II 編構造と機能 第 5 章教科書 P144 から P169 神経系 ①中枢神経系 ②末梢神経系	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード： 大脳・小脳・脊髄・脊髄神経
3	II 編構造と機能 第 4 章 P109 から P143 循環器系 ①血管 ②心臓 ③動静脈 ④リンパ管	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード： 血液循環・房室弁・リンパ
4	II 編構造と機能 第 6 章 p 171 から P188 呼吸器系 ①上気道 ②下気道 ③呼吸の調節	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：気管・気管支・肺
5	II 編構造と機能 第 3 章 P85 から P107 消化器系 ①口腔 ②食道 ③胃 ④十二指腸 ⑤小腸 ⑥大腸 ⑦肝胆膵 ⑧吸収と消化	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：消化管・肝胆膵
6	II 編構造と機能 第 8 章泌尿器系 (P206 から P215) ①腎臓 ②尿管 ③膀胱 11 章生殖器系 (P234 から P239) ④男性生殖器 ⑤女性生殖器 ⑥性周期	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：尿路・精子形成・排卵
7	II 編構造と機能 第 7 感覚器系 (P189 から P204) ①皮膚 ②眼 ③耳 第 10 章) 内分泌 (P227 から P233 系 ③下垂体 ④甲状腺 ⑤膵臓 ⑥副腎 ⑦性腺	講義	講義終了時に配布する復習課題を次回、授業開始時に提出する。 キーワード：重層扁平上皮・視神経・ホルモン
8	定期試験	筆記試験	定期試験 80 点 復習課題 20 点で総合評価する。

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 1『解剖学・組織発生学・生理学』/医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	講義中に紹介する。
この授業科目を前提とする主な科目	生物学
この授業科目から発展する主な科目	口腔解剖学 病理学 口腔病理学
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象および配分：定期試験 80%：復習課題 20%
その他 受講生への要望等	歯科衛生士はヒトの健康を守る診療スタッフの一員であることを自覚し、真摯な態度で授業に臨んで頂きたい。

授業科目名	生理学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	生理学は生体の働きとその仕組みを理解する学問です。例えば、生体を構成する心臓や胃あるいは脳などの器官についてそれぞれの働きと仕組みを学びます。それらは常に有機的に結びついて働き、他の器官と関係なく働くことはありません。正常な働きが維持できるように身体はいろいろな調節を受けます。これをホメオスタシス（生体恒常性）と言います。生理学はこのホメオスタシスを学ぶことになります。		
授業科目の到達目標	1. 生体の構造と機能を説明できる 2. 身体の状態と生体機能を関連付けできる 3. 歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を身につける		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1. 神経系と神経細胞（ニューロン） ①神経系の概要（中枢神経系・末梢神経系） ②神経系の細胞（ニューロン・グリア細胞） ③ニューロンの活動（活動電位・伝導と伝達）	講義	【予習】 教科書 p.145 教科書 p.29、30 教科書 p.146～149
2	2. 筋と運動 ①筋の構造（骨格筋・筋線維・筋原線維） ②筋収縮の仕組み（滑走説・興奮収縮連関） ③筋収縮の力学（収縮様式・単収縮・強縮） ④反射（伸張反射・筋紡錘・下顎帳反射） ⑤随意運動（大脳運動皮質・小脳・大脳基底核）	講義	【予習】 教科書 p.60 教科書 p.61 教科書 p.61 教科書 p.76～81 【復習】 前回授業内容の小テスト
3	3. 感覚 ①感覚を生じるシステム（感覚器・インパルス） ②大脳皮質の機能局在（感覚野） ③特殊感覚器（視覚・聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚） 4. 自律神経系（交感神経系・副交感神経系）	講義	【予習】 教科書 p.191 教科書 p.153 教科書 p.198～205 教科書 p.166 【復習】 前回授業内容の小テスト
4	5. 循環（1）ー血液ー ①血液の組成と機能 ②赤血球の役割（造血・ガス運搬・止血・血液型） ③白血球の役割（液性免疫・細胞傷害性免疫）	講義	【予習】 教科書 p.116 教科書 p.119～122 教科書 p.117、118 【復習】 前回授業内容の小テスト
5	6. 循環（2）ー心臓と血管ー ①循環系（体循環・肺循環）	講義	【予習】 教科書 p.111

	②心臓の構造と機能（刺激伝導系・心電図） ③血管と血圧調節（血圧・脈・血圧調節の仕組み） ④リンパ系		教科書 p.124～127 教科書 p.113、114 教科書 p.138
6	7. 呼吸 ①呼吸器の構成（気道・肺・気管・肺胞） ②ガス交換とガスの運搬（酸素解離曲線） ③呼吸運動 ④肺気量（スパイロメーター・肺活量） ⑤呼吸調節	講義	【予習】 教科書 p.178 教科書 p.183～185 教科書 p.180 教科書 p.182 教科書 p.185～187 【復習】 前回授業内容の小テスト
7	8. 消化・吸収 ①消化器系の概要 ②嚥下（嚥下の三相・嚥下反射） ③胃における消化（ペプシン・胃酸・内因子・粘液） ④小腸における消化と吸収（膵液・管内消化と膜消化） ⑤大腸と排便反射	講義	【予習】 教科書 p.85 教科書 p.90 教科書 p.91、98 教科書 p.101、102 教科書 p.106 【復習】 前回授業内容の小テスト
8	9. 排泄（泌尿） ①腎臓の構造と働き ②体液量の調節と排尿反射 定期試験	講義 筆記試験	【予習】 教科書 p.210 教科書 p.216 【筆記試験】 主として小テストの範囲

使用テキスト	最新 歯科衛生士教本 「解剖学 組織発生学 生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	生物学、組織発生学
この授業科目から発展する主な科目	病理学
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	○難しい生理学用語が多く出てきますが、医療人として知っておくべき基礎的な言葉です。用語の意味と共にしっかり覚えてください。 ○生理学は難しいとされている学問です。にもかかわらず短時間で多くのことが網羅されていますので、あらかじめシラバスに示されたページの内容を読んでおくことが大切です。読んでわからないところはチェックしておきましょう。講義中にわからないところを聴き逃さないように努めてください。 ○講義は配布するプリントに沿って進みます。プリントを見ただけでその内容が理解できるわけではありません。プリントは未完成な状態です。講義をしっかり聴いてそこにあることをメモすることで、完成します。そのことを忘れずに講義に臨んでください。

授業科目名	生化学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	生化学は生体の構成とその働きを分子レベルで理解し、化学反応としてとらえる学問である。生体構成成分や栄養素の体内での分解過程、それに伴って発生するエネルギー生成過程、あるいは細胞などの生体構成物質の生成過程を理解することにあります。また、歯と歯周疾患の化学反応を修得します。		
授業科目の到達目標	1. 生体の化学反応の場である細胞の構造と細胞小器官の働きを概説できる 2. 化学反応の主体である構成成分（糖質・脂質・蛋白質）の構造と機能を概説できる 3. 生体化学反応と歯科疾患との関連を概説できる 4. 歯科衛生士国家試験に向けた試験対策知識を身につける		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1. 生体の構成要素（1） ①生化学とは何か ②細胞の構造（細胞膜・核・細胞小器官） ③細胞の構成と栄養素（蛋白・糖質・脂質）	講義	【予習】 教科書 p.1～2 教科書 p.6～8 教科書 p.12、13
2	生体の構成要素（2） ①細胞内外の環境、②緩衝作用 2. 糖質の代謝 ①糖質の種類 ②糖質のエネルギー代謝（解糖・クエン酸回路・電子伝達系）	講義	【予習】 教科書 p.11、12 教科書 p.14～16 教科書 p.27～35 【復習】 前回授業内容の小テスト
3	3. 脂質の代謝 ①脂質の種類 ②脂質のエネルギー代謝 4. タンパク質の代謝 ①タンパク質とアミノ酸 ②アミノ酸とタンパク質合成	講義	【予習】 教科書 p.16、17 教科書 p.36 教科書 p.18～20 教科書 p.38～42 【復習】 前回授業内容の小テスト
4	5. 歯と歯周組織の生化学（1） ①上皮組織と結合組織 ②結合組織の細胞成分と細胞外マトリックス成分	講義	【予習】 教科書 p.50～56 【復習】 前回授業内容小テスト
5	歯と歯周組織の生化学（2） ①歯の組成（有機成分と無機成分） ②ヒドロキシアパタイト 6. 硬組織の生化学 ①石灰化の仕組み	講義	【予習】 教科書 p.57～62 教科書 p.65～70 【復習】 前回授業内容の小テスト

6	②血清 Ca の調節 ③骨の生成と吸収 7. 唾液の生化学 ①唾液の緩衝作用 ②脱灰と再石灰化 ③唾液の作用（まとめ）	講義	【予習】 教科書 p.68～75 教科書 p.81～87 教科書 p.76、77 【復習】 前回授業内容の小テスト
7	8. プラークの生化学 ①プラークの形成 ②プラークとう蝕 ③プラークと歯周疾患発生機構		【予習】 教科書 p.90～94 教科書 p.105～109 【復習】 前回授業内容の小テスト
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新 歯科衛生士教本 「栄養と代謝」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	栄養学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	○ 講義は配布するプリントに沿って進みます。プリントを見ただけでその内容が理解できるわけではありません。プリントは未完成な状態です。講義をしっかりと聴いてそこにないことをメモすることで、完成します。そのことを忘れずに講義に臨んでください。 ○ 小テストは国家試験問題と重要点について出題します。多くは講義を聴き、メモをとっていれば解ける問題です。定期試験の出題問題の多くは小テストからの問題になります。 ○ 目に見えない分子レベルでの生体現象の過程の理解は難しいですが、それが齲蝕や歯周疾患に結びつくことをいつも頭に入れて学習することが大切です。

授業科目名	組織発生学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	組織発生学は基礎歯学の特に解剖学、生理学の基本となる学問です。		
授業科目の到達目標	1. 組織について説明できるようにする 2. 人体の発生について説明できるようにする		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 章 細胞 ①細胞膜、オルガネラ、DNA)	講義	予習 教科書を読む P 14～P 21
2	②上皮、支持、筋、神経組織	講義	予習 教科書 P 22～P 31 を読む
3	2 章 発生 体細胞分裂、減数分裂、排卵から着床	講義	予習 教科書 P 32～P 38 を読む
4	④着床から三胚葉 胚子期から胎児期、	講義	予習 教科書 P 38～P 44 を読む
5	⑤胎児の成長と発育 鰓弓、顔面の発生	講義	予習 教科書 P 41～P 42 を読む
6	1 章 顔面と口腔の発生 舌、腺の発生	講義	予習 口腔発生学教科書 P 2 を読む
7	2 章 歯と歯周組織の発生	講義	予習 口腔発生学教科書 P 208 を読む
8	定期試験		筆記試験

使用テキスト	最新歯科衛生教本「解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	人体の構造と機能（医歯薬出版）
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	解剖学、生理学、病理学
成績評価の方法	定期試験 授業態度
その他 受講生への要望等	必ず予習を心がけてください。

授業科目名	口腔解剖学 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	口腔とその周囲組織の構造と機能について理解します。		
授業科目の到達目標	1. 頭頸部の基本的な構造と機能について理解する 2. 歯と歯周組織の構造と機能について理解する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の形態 1. はじめに ①歯の機能 ～12、歯の左右の識別 歯の形態 ①はじめに 1、歯の機能 ～12、歯の左右の識別	講義	【予習】 教科書 P148～156 を読む
2	②永久歯 1、永久歯の特徴 2、形態的特徴 1) 上顎中切歯～6) 下顎犬歯	講義	【予習】 教科書 P156～165 を読む 【復習】 前回の授業内容
3	2、形態学的特徴 7) 上顎第一小白歯～12) 上顎第二大白歯	講義	【予習】 教科書 P165～175 を読む 【復習】 前回の授業内容
4	2、形態学的特徴 13) 下顎第一大白歯 14) 下顎第二大白歯 ③乳歯 1、乳歯の特徴	講義	【予習】 教科書 P175～181 を読む 【復習】 前回の授業内容
5	③乳歯 2、乳歯の形態学的特徴 1) 上顎乳中切歯 ～7) 上顎第一乳白歯	講義	【予習】 教科書 P181～193 を読む 【復習】 前回の授業内容
6	2、乳歯の形態学的特徴 8) 上顎第二乳白歯～10) 下顎第二乳白歯 ④特色のある歯 1～10	講義	【予習】 教科書 P193～198 を読む 【復習】 前回の授業内容
7	④特色のある歯の形態 11～33 まとめ	講義	【予習】 教科書 P198～201 を読む 【復習】 前回の授業内容
8	口腔付近の解剖学 ①口腔とは 1、表面 2、口腔前提 3、固有口腔		【予習】 教科書 P10～18 を読む 【復習】 前回の授業内容
9	②口腔を構成する骨 1、頭蓋の概要 2、口腔を構成する骨 1) 上顎骨	講義	【予習】 教科書 P18～29 を読む 【復習】 前回の授業内容
10	2、口腔を構成する骨 2) 口蓋骨～4) 舌骨 ③頭頸部の筋と作用 1、表面筋	講義	【予習】 教科書 P29～37 を読む 【復習】 前回の授業内容

11	③頭頸部の筋と作用 2、咀嚼筋 3、舌筋 4、頸部の筋 5、顎下三角オトガイ三角 6、翼突下顎隙・縫線	講義	【予習】 教科書 P37～42 を読む 【復習】前回の授業内容
12	④顎関節 ⑤脈管系 1、動脈 2、静脈 3、リンパ系	講義	【予習】 教科書 P42～56 を読む 【復習】前回の授業内容
13	⑥神経 1、脳神経 1) 概要 2) 三叉神経 3) 顔面神経 4) 舌咽神経	講義	【予習】 教科書 P56～64 を読む 【復習】前回の授業内容
14	⑥神経 1、脳神経 5) 迷走神経 6) 舌下神経 2、頭頸部に分布脊髄神経 3、自律神経	講義	【予習】 教科書 P64～67 を読む 口腔解剖学 I 全般復習
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	解剖学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験 出席 授業態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	口腔解剖学Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	口腔およびその周囲組織のなりたちを理解するために、口腔とその首位組織の構造と機能に関する基本的知識を習得します。		
授業科目の到達目標	1 頭頸部の基本的な構造と機能を理解する 2 歯と歯周組織の構造と機能を理解する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯の解剖学 総論 各種用語	講義	
2	歯の解剖学 各論 上下顎中切歯、側切歯、犬歯について	講義	
3	歯の解剖学 各論 上下顎小白歯について	講義	
4	歯の解剖学 各論 上下顎大白歯について	講義	
5	歯の解剖学 各論 乳歯について	講義	
6	歯の解剖学 スケッチ右側上顎中切歯①	演習	
7	歯の解剖学 スケッチ右側上顎中切歯②	演習	
8	歯の解剖学 総まとめ	講義	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	口腔解剖Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	歯科保存学 歯科補綴学 歯科放射線学
成績評価の方法	授業中のノート、スケッチ（右側上顎中切歯、右側上顎第一大臼歯）
その他 受講生への要望等	実習は休まないようにしましょう。

授業科目名	口腔生理学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	口腔生理学は、口腔、顎、顔面領域に現れる生命現象を主に扱う生理学の一分野であり、歯、咀嚼、口腔感覚、味覚、唾液、発声などの生理機能を理解し、その理論的基盤を確立することを目的とします。		
授業科目の到達目標	1. 口腔生理学の学習範囲内において、国家試験に合格できるだけの学力と知識を身につける 2. 歯と口腔の感覚について説明できる 3. 味覚と嗅覚について説明できる 4. 咬合と咀嚼、吸啜について説明できる 5. 咀嚼と嘔吐について説明できる 6. 唾液について説明できる 7. 発声について説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	第3章 歯と口腔の感覚 ①歯の感覚 ②口腔粘膜の感覚	講義	教科書の「歯と口腔の感覚」を読んでくる。
2	第4章 味覚と嗅覚 ①味覚 ②嗅覚	講義	「味覚と嗅覚」を読んでくる。
3	第5章 咬合と咀嚼、吸綴 ④摂食行動 2. 咀嚼	講義	「咀嚼」を読んでくる。
4	第5章 咬合と咀嚼、吸綴 ⑥吸啜	講義	「吸啜」を読んでくる。
5	第6章 嚥下と嘔吐 ②嚥下	講義	「嚥下」を読んでくる。
6	第8章 唾液	講義	「唾液」を読んでくる。
7	第7章 発声 定期試験説明	講義	「発声」を読んでくる。
8	定期試験	筆記試験	マークシート

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	生物学

この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験 10割
その他 受講生への要望等	

授業科目名	病理学		
実務経験講師	—	実務経験	—
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単位数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	病理学は基礎医学の中でも最も大切な学問で、臨床歯学と基礎歯学への中継ぎを担う大切な学問です。本講義では病気の原因、発症の成り立ち、進展及び転帰を明らかにし、治療につなげられる大切な学問です。		
授業科目の到達目標	1. 疾病の概念、発生機序と病理学的特徴を理解する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 章 病理学とは何か 2 章 遺伝性疾と奇形	講義	予習 教科書を読む P 2～P 13を読む
2	3 章 循環障害 ①循環障害とは ②循環障害の種類	講義	予習 教科書 P 14～P 22を読む
3	4 章 代謝障害と退行性病変 ①細胞傷害 ②変性とは ③萎縮 ④細胞の死とは	講義	予習 教科書 P 23～P 33を読む
4	5 章 増殖と修復 ①進行性病変 ②増殖と修復	講義	予習 教科書 P 34～P 42を読む
5	6 章 炎症と免疫応答異常 ①炎症	講義	予習 教科書 P 143～P 52を読む
6	免疫とアレルギー	講義	予習 教科書 P 52～P 59を読む
7	7 章 腫瘍 ①腫瘍の発生とは ②腫瘍の種類とその性質 ③腫瘍の診断	講義	予習 教科書 P 60～P 68を読む
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	人体の構造と機能（医歯薬出版）
この授業科目を前提とする主な科目	組織発生学、解剖学、生理学、微生物
この授業科目から発展する主な科目	口腔病理学、臨床検査

成績評価の方法	定期試験 出席
その他 受講生への要望等	必ず予習を心がけてください。

授業科目名	薬理学		
実務経験講師	○	実務経験	薬剤師
開講年度	2022 年次	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単位数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	これからの歯科衛生士にはさまざまな課題があります。 健康志向の高まりや口腔機能の重要性が叫ばれるなか、生活習慣病としてのう蝕や歯周病はもちろん、全身疾患、摂食・嚥下障害を有する患者や介護を要する高齢者の増加に対してこれまで以上に予防や食べる機能を重視し、口腔と全身の関係において他職種と連携しながら対応していくことで病気と薬物をひもときながらすすめます。		
授業科目の到達目標	1 歯科衛生士として歯周疾患に使用する薬物について理解し患者に説明できる知識を身につける（含嗽、洗口等に使用する口腔薬、う蝕の予防） 2 歯科衛生士国家試験対策を中心にすすめる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	薬物の作用 薬物動態（自己紹介を含む）	講義	P2～P21（予習）
2	薬物の適用方法 作用に影響を与える要因 副作用 有害作用	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P22～P43（予習）
3	医薬品を適用する際の注意 薬物の取り扱い 薬物と法律 医薬品	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P44～P64
4	ビタミンとホルモン 末梢神経系に作用する薬物	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P66～P80
5	中枢神経に対する薬物	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P81～P92
6	循環器系に作用する薬物 腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P93～P111
7	血液に作用する薬物 免疫と薬 悪性腫瘍と薬	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P112～P128
8	代謝性疾患治療薬 炎症と薬	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P129～P143

9	痛みと薬 局所麻酔薬	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P 1 4 4 ～ P 1 5 8
10	抗感染症薬	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P 1 5 9 ～ P 1 6 9
11	消毒に使用する薬	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P 1 7 0 ～ P 1 8 0
12	う蝕予防薬 歯内療法	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答 P 1 8 1 ～ P 1 9 0
13	漢方医学と体の熱代謝について	講義	①前回のまとめのテスト ②質疑応答
14	まとめのテスト 質疑応答	講義	
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「薬理学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	医療安全 臨床検査法
成績評価の方法	定期試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	微生物学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科医師
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単位数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	歯科衛生士が行う業務、すなわち齲蝕や歯周病等の口腔感染症に対する予防処置や患者に対する口腔衛生指導さらに診療補助業務としての治療機材の滅菌や消毒を行う為に必要な微生物学のおよび免疫学的知識を習得します。		
授業科目の到達目標	1 微生物の病原性について理解する 2 病原微生物に対する生体防御機構、免疫について説明できる 3 院内感染対策として、滅菌・消毒の重要性を認識できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	微生物とは…疾病と微生物 ①疾病と微生物・免疫学 ②感染と感染症	講義	【予習】 教科書 P1～P12
2	微生物の病原性、細菌 ①微生物の位置づけ ②細菌	講義	【予習】 教科書 P13～P28 【復習】 前回授業内容小テスト
3	主な病原性細菌 ①グラム陽性菌 ②グラム陰性菌	講義	【予習】 教科書 P28～P44 【復習】 前回授業内容小テスト
4	ウィルス、真菌 ①スピロヘータ、リケッチア、クラミジア ②ウイルス ③真菌、原虫	講義	【予習】 教科書 P44～P73 【復習】 前回授業内容小テスト
5	宿主防御機構 ①非特異的防御機能 ②特異的防御機能	講義	【予習】 教科書 P74～P81 【復習】 前回授業内容小テスト
6	免疫機構 ①免疫関連臓器と免疫担当細胞 ②抗原 ③抗体	講義	【予習】 教科書 P82～P94 【復習】 前回授業内容小テスト
7	抗原抗体反応、アレルギー ①抗原抗体反応 ②アレルギー	講義	【予習】 教科書 P94～P109 【復習】 前回授業内容小テスト

8	口腔微生物学 ①口腔細菌叢 ②プラーク ③歯石	講義	【予習】 教科書 P 110～P 122 【復習】 前回授業内容小テスト
9	口腔感染症 ①う蝕 ②歯内感染症	講義	【予習】 教科書 P 123～P 130 【復習】 前回授業内容小テスト
10	歯周病、その他の口腔感染症 ①歯周用 ②唾液腺の感染症 ③カンジダ症	講義	【予習】 教科書 P 130～P 143 【復習】 前回授業内容小テスト
11	化学療法 ①化学療法 ②抗真菌薬 ③抗ウイルス薬	講義	【予習】 教科書 P 144～P 154 【復習】 前回授業内容小テスト
12	院内感染対策と滅菌・消毒 ①標準予防策 ②滅菌法 ③消毒法	講義	【予習】 教科書 P 155～P 166 【復習】 前回授業内容小テスト
13	細菌培養、顕微鏡観察 ①培養法・培地 ②顕微鏡観察	講義	【予習】 教科書 P 167～P 173 【復習】 前回授業内容小テスト
14	まとめ、試験対策	講義	【予習】【復習】 授業で使ったプリント を理解する
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 「微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版		
参考書・資料 等	同上		
この授業科目の前提となる主な科目	口腔衛生学 衛生学総論		
この授業科目から発展する主な科目	う蝕予防法 歯周病予防法 口腔外科学 臨床検査		
成績評価の方法	定期試験：9割／出席状況：1割 受講態度・小テストも加味します。		
その他 受講生への要望等			

授業科目名	衛生学総論		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みについて学びます。		
授業科目の到達目標	1. 健康の定義と国民の権利について説明できる 2. 人間と環境の関係を理解できる 3. 感染症の概念と感染成立の三要因を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	健康の概念・予防医学の概念 【キーワード】 WHO プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション P 2～P 7	講義	
2	疫学の定義および概要・疾病の方法 【キーワード】 宿主要因 環境要因 コホート研究 P 8～P 17	講義	小テスト (前回の内容)
3	人口の動向 人口の推移 人口動態 【キーワード】 人口ピラミッド 人口3区分 生産人口 P 18～P 33	講義	小テスト (前回の内容)
4	健康と環境（概念・空気・水・放射線） 【キーワード】 正常は空気成分 上水道 P 34～P 47	講義	小テスト (前回の内容)
5	健康と環境（居住・衣服・地球環境・公害） 【キーワード】 温暖化 光化学オキシダント 4大公害病 P 47～P 59	講義	小テスト (前回の内容)
6	感染症（感染症の概念・対策・動向） 【キーワード】 成立の三要因 ワクチン 新興感染症 P 60～P 75	講義	小テスト (前回の内容)
7	食品と健康（食中毒・安全性確保・食事摂取基準） 【キーワード】 細菌毒 食品表示 食事バランスガイド P 75～P 86	講義	小テスト (前回の内容)
8	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」／医歯薬出版
参考書・資料 等	

この授業科目を前提とする主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	口腔衛生学 公衆衛生学 微生物学
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象および配分：試験 8 割、出席状況 1 割、提出物 1 割
その他 受講生への要望等	配布プリント、小テストのファイリングをきちんと行ってください。 提出物の期限を守ってください。

授業科目名	口腔衛生学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	口腔の健康に影響を及ぼす様々な要因について基礎的な知識を習得し、う蝕や歯周病など口腔疾患の予防法について習得する。 また、自らの歯と口腔の健康を把握し、歯と口腔の健康づくりについて学ぶことで歯科衛生士として歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方法について学ぶ。 口腔衛生学は、他科目（歯科予防処置論、歯科保健指導論）の基礎となる内容であることも理解する。		
授業科目の到達目標	1. 歯・口腔の発育と機能ならびにそれを取り巻く歯・口腔の環境を説明できる 2. 口腔清掃の基礎と実際を説明できる 3. う蝕予防の基礎と実際を説明できる 4. 歯周疾患予防の基礎と実際を説明できる 5. その他の歯科疾患の基礎と実際を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	口腔健康の定義 「歯・口腔の健康」と予防の方法と健康づくり 【キーワード】セルフケア、プロフェッショナルケア	講義	
2	歯・口腔の健康と構造 【キーワード】歯・歯周組織、唾液腺、唾液の機能	講義	【小テスト】
3	歯・口腔の発生と成長・発育 【キーワード】歯の発生過程、歯・口腔形成異常	講義	【小テスト】
4	歯・口腔の機能 口腔の健康と全身の健康 【キーワード】咀嚼、嚥下、誤嚥性肺炎、歯性病巣感染	講義	【小テスト】
5	歯・口腔の付着物・沈着物 【キーワード】ペリクル、プラーク、主要な細菌、歯肉縁、上歯石、歯肉縁下歯石、舌苔	講義	【復習】 わからない語句を調べてくる 【小テスト】
6	口腔清掃 口腔清掃の意義と清掃法 【キーワード】口腔清掃の分類、ブラッシング法	講義	【小テスト】
7	歯科疾患の疫学 歯科疾患の疫学的特性	講義	【小テスト】

	【キーワード】 歯科疾患実態調査		
8	う蝕の予防 ①う蝕発生のメカニズムと発生要因 【キーワード】 Keyes の 3 つの輪、Newbrun の 4 つの輪	講義	【小テスト】
9	う蝕の予防 う蝕活動試験について う蝕の予防法について（歯質・飲食物・口腔細菌） 【キーワード】 う蝕活動性試験、う蝕発生要因に対する予防法	講義	【小テスト】
10	フッ化物によるう蝕予防 わが国のフッ化物応用（フッ化物摂取量とその基準） 【キーワード】 フッ化物の摂取量とその基準、フルオロアパタイト、ヒドロキシアパタイト、フッ素症	講義	【小テスト】
11	フッ化物によるう蝕予防 フッ化物応用によるう蝕予防方法 【キーワード】 フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口法、フッ化物配合歯磨剤、水道水フッロリデーション	講義	【小テスト】
12	歯周疾患の予防 歯周疾患の種類と発病のメカニズム 歯周疾患の炎症と広がりと症状 【キーワード】 歯周組織の構造、プロービングデプス、・アタッチメントレベル	講義	【小テスト】
13	その他の疾患・異常の予防 口腔疾患の種類、要因 【キーワード】 口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭症、口腔感染症	講義	【小テスト】
14	ライフステージごとの口腔保健管理 妊産婦～高齢期の口腔衛生について 、【キーワード】 妊娠性歯肉炎、離乳、思春期性歯肉炎、若年性歯肉炎、根面う蝕、慢性歯周炎、前がん病変、口腔乾燥症	講義	【小テスト】
15	定期試験	筆記試験	今までの総復習

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」（医歯薬出版）
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	口腔解剖学、栄養学、微生物学 歯科保健指導論
この授業科目から発展する主な科目	歯科保健指導論、う蝕予防法 歯周病予防法

成績評価の方法	定期試験（8割）、出席状況（2割）
その他 受講生への要望等	身近な健康問題に目を向け、衛生学・公衆衛生学と結び付けてみましょう。 授業のみならず、予習復習も大切です。

授業科目名	公衆衛生学		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	歯科衛生士として必要な健康と予防医学の概念、自然・環境と健康との関係や集団を対象とした疾病予防と地域保健活動について学習します。		
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生士を目指す学生が法律を学ぶ目的を説明できる 2. 歯科関連法規を詳しく説明できる 3. 保健衛生法規の概説できる 4. 社会保険制度の概略を説明できる 5. 社会福祉関連法規の概略を説明できる 6. 生活習慣と生活習慣病について説明できる 7. ライフステージに対応した地域保健活動を説明できる 8. 災害時における歯科衛生士の役割を説明できる 9. 国際保健の概略を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	衛生・保健・健康の概念について理解する。 ①地域保健・地域社会と保健対策の基本的な考え方 ②地域保健の関連施策体系について ③地域保健の関連法令について 【キーワード】 地域社会・ライフスタイル	講義	【予習】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
2	地域保健の組織 ①地域保健の組織 ②保健所と市町村保健センターの違い 【キーワード】 地域社会・保健所・市町村保健センター	講義	【予習】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
3	地域保健の新たな概念 ①ヘルスプロモーション ②ソーシャルキャピタル ③ノーマライゼーションについて ④健康危機管理を理解する。	講義	【予習】 教科書を読みわからない語句を書き出す。 【確認テスト】
4	地域保健活動の進め方 ①現状を把握し、問題の分析 ②活動の 4 評価について ③予防方法について 【キーワード】 地域保健活動の評価・ハイリスクアプローチ ポピュレーションアプローチ	講義	【予習】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】

5	健康づくり対策と地域歯科保健 ①8020 運動について ②健康日本21について ③歯科口腔保健法について ④保健福祉関連施策について 【キーワード】 8020運動・健康日本21・歯科口腔保健法	講義	【予習】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
6	母子保健 ①母子保健の意義と対象について ②母子保健の同行と関連法規について ③母性と乳幼児の保健活動について ④母子保健の今後の動向について 【キーワード】 母子保健手帳・乳幼児健診	講義	【予習】 母子保健 母子保健について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
7	母子保健 ①母子保健の意義と対象について ②母子保健の同行と関連法規について ③母性と乳幼児の保健活動について ④母子保健の今後の動向について 【キーワード】 母子保健手帳・乳幼児健診	講義	【予習】 母子保健 母子保健について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
8	学校保健1 ①学校保健の意義と分野について ②保健教育について ③保健管理について ④組織活動について	講義	【予習】 学校保健の意義について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
9	学校保健2 ⑤学校歯科保健について ⑥学校歯科健康診断について ⑦歯式の記号	講義	【予習】 学校保健の意義について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す 【確認テスト】
10	成人保健 ①生活習慣病について ②成人保健対策について ③成人期の歯科保健について	講義	【予習】 学校保健の意義について概説する。 教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
11	産業保健 ①産業保健の概念について	講義	【予習】 産業保健について概説する。

	②職業性疾病について ③産業保健管理について ④産業保健活動について		教科書を読み、わからない語句を書き出す。 【確認テスト】
12	老人保健 ①老人保健の意義について ②老人保健の組織 ③老人保健の法律 【キーワード】 生活習慣病・歯科保健事業・介護保険法・サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル	講義	【予習】 老人保健について概説する。 教科書をよく読みわからない語句を書き出す。 【確認テスト】
13	環精神保健 ①精神保健の意義 ②精神保健の現状と課題 ③精神障害者の社会復帰 国際保健について理解する ①国や地域により健康水準や保健医療の違い ②国際協力機関について ③WHOやJICAの活動概要 ④世界の歯科疾患の状況、口腔保健従事者について ⑤発展途上国の口腔保健戦略 【キーワード】 感染経路の分類・後天性免疫・予防接種	講義	【確認テスト】 教科書を読み、わからない語句を書き出す。
14	災害時の歯科保健 ①大規模災害の保健医療対策 ②被災地での歯科保健活動 ③災害時の個人識別における歯科衛生士の役割	講義	【予習】 教科書をよく読みわからない語句を書き出してくる。
15	定期試験	試験	定期試験

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「保健生態学」（医歯薬出版）
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	衛生学総論
この授業科目から発展する主な科目	歯科保健指導論Ⅱ
成績評価の方法	定期試験（８０％） 課題提出状況（５％） 小テスト（１５％）
その他 受講生への要望等	身近な健康問題に目を向け、衛生学・公衆衛生学と結び付けてみましょう。 授業のみならず、予習復習も大切です。

授業科目名	歯科衛生士概論		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	歯科衛生士の誕生や歴史的背景を学び、社会的役割や意義を理解するとともに、歯科衛生士業務に携わる心構えを養います。		
授業科目の到達目標	1. 歯科衛生士の定義を述べることができる。 2. 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。 3. 歯科衛生過程の 6 つのステップと意味を説明できる。 4. 健康づくり支援は、患者第一に実践されるということを説明できる。 5. 業務記録の意義を説明できる。 6. 歯科衛生の実践は倫理的でなければならない理由を説明できる。 7. 歯科衛生業務を実践するには、判断力と習熟した技術の必要性を説明できる。 8. 多職種との連携とチーム医療について説明できる。 9. 歯科衛生業務と医療安全とを関連づけて説明できる。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科衛生学、歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科衛生士と健康のかかわりについて ②歯科衛生活動の対象と領域について ③歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務 ④歯科衛生士の専門性 【キーワード】健康の定義、歯科衛生士、歯科衛生士養成所、 歯科衛生士法、歯科衛生業務	講義	【予習】教科書 P 1～P 7 読んでおく
2	歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務 ②歯科予防処置の概要について 【キーワード】歯科衛生士法、歯科予防処置、業務独占	講義	【予習】教科書 P 42～ P 45 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
3	歯科衛生士法と歯科衛生業務 ①歯科診療補助の概要について 【キーワード】歯科衛生士法、歯科診療補助、業務独占、 保健師助産師看護師法、医行為	講義	【予習】教科書 P 45～ P 46 を読み、わからない 語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認

4	歯科衛生士法と歯科衛生業務 歯科衛生活動のための理論 ①歯科保健指導の概要について ②関係法規 ③歯科衛生活動のための予防概念・保健行動の理論 【キーワード】歯科衛生士法、歯科保健指導、名称独占、第一次予防、第二次予防、第三次予防、E B M・	講義	【予習】教科書 P 46～P 53、P 20～P 31 を読んでおく。 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
5	歯科衛生士の活動と組織 ①歯科衛生士活動の現況 ②歯科衛生士の活動の場 ③歯科衛生士の教育機関 【キーワード】歯科診療所、保健所、介護保険施設、地域包括ケアシステム	講義	【予習】教科書 P 77～P 89、P 98 を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認
6	歯科衛生士と医療倫理 ①歯科衛生と医療倫理 ②日本歯科衛生士憲章 ③自己決定権の尊重 【キーワード】ジュネーブ宣言、医療従事者の倫理原則、トリアージ、I F D H、パターンナリズム	講義	【予習】教科書 P 66～P 72 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
7	歯科衛生士と医療倫理 ①インフォームド・コンセントについて ③インフォームド・チョイスについて ④セカンドオピニオンについて 【キーワード】インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンドオピニオン、自立の尊重	講義	【予習】教科書 P 73～P 76 を読み、わからない語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認
8	歯科衛生法と歯科衛生業務 ①医療安全管理の必要性 ②医療安全管理について法的責任について ③感染予防対策 【キーワード】ヒヤリ・ハット、医療事故、医療過誤、インシデント、アクシデント	講義	【予習】教科書 P 53～P 65 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
9	歯科衛生課程 ①歯科衛生課程とは ②歯科衛生過程活用の利点 ③歯科衛生課程の流れ ④歯科衛生アセスメントについて 【キーワード】歯科衛生過程、歯科衛生アセスメント	講義	【予習】教科書 P 32～P 39 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】

10	歯科衛生課程 ①歯科衛生診断、計画立案、介入、評価について ②歯科衛生士の業務記録について 【キーワード】 歯科衛生診断、歯科衛生計画立案、歯科衛生介入、 歯科衛生評価、業務記録（書面化） P O S、 S O A P	講義	【予習】教科書 P 38～ P 41 を読み、わからない 語句を調べてくる。 【復習】 配布資料の確認
11	チーム医療 ①歯科衛生活動の対象について ②歯科衛生活動の領域について 【キーワード】 多職種、 N S T、地域包括ケアシステム	講義	【予習】 教科書 P 7、 P 82～ P 85、 P 98 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
12	歯科衛生士の歴史 海外における 歯科衛生士 ①日本の歯科衛生士の歴史 ①海外の歯科衛生士の歴史 ②海外の歯科衛生士の現状と今後 【キーワード】 歯科衛生士	講義	【予習】 教科書 P 8～ P 19、 P 93 ～ P 97 を読み、わから ない 語 句 を 調 べ て く る。 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
13	歯科衛生士の活躍の場 ①周術期口腔ケア ②地域包括ケアシステム ③災害時の歯科衛生管理 【キーワード】 周術期口腔ケア、健康日本 2 1、栃木県の歯科保健	講義	【予習】教科書 P 81～ P 88、 P 70 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認
14	歯科衛生士専門職と組織 歯科衛生士概論のまとめ ①歯科衛生士の社会組織活動の領域と組織活動 ②歯科衛生士概論まとめ 【キーワード】 認定歯科衛生士、日本歯科衛生士会	講義	【予習】教科書 P 89～ P 92 を読んでおく 【復習】 配布資料の確認 【小テスト】
15	定期試験	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本『歯科衛生士教本歯科衛生学総論』
参考書・資料 等	
この授業科目の前提と なる主な科目	歯科予防処置論・歯科保健指導論 保健生態学 歯科衛生士と法律と制度

この授業科目から発展する主な科目	歯科診療補助論・歯科予防処置論・歯科保健指導論 障害者歯科・高齢者歯科・小児歯科・統計学・衛生学総論 口腔衛生学・公衆衛生学
成績評価の方法	授業態度 1 割 課題レポート（内容と提出状況）小テスト 2 割 試験 7 割
その他 受講生への要望等	・歯科衛生士として学ぶ 3 年間の概要となり範囲が広い教科なので、授業だけでなく予習復習も大切です。 ・受講後、必ずノートと資料の内容確認し、整理してください。

授業科目名	予防システム論		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	8 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間
授業科目の概要	口腔の健康に影響を及ぼすう蝕・歯周病の要因について基礎的な知識を習得します。 歯科衛生士として人々の歯と口腔の健康づくりを支援するための基礎と方策について学習します。		
授業科目の到達目標	1. 歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる 2. 摂食嚥下のしくみを概説できる 3. 口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる 4. プラークの形成過程と成分を説明できる 5. 歯石の形成過程と成分を説明できる 6. う蝕の原因と進行、予防方法を説明できる 7. 歯周病の原因と分類、進行および予防方法を説明できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 章 口腔の基礎 ①口腔・口腔周囲の構造 【キーワード】口腔前提・固有口腔	講義	【予習】 教科書 P 16～P 18 までを読み、分からない語句を書き出す。
2	②歯周組織 歯周組織の模式図 ③歯冠と歯根の形態 【キーワード】歯周組織・歯冠・歯根	講義	【予習】 教科書 P18～P22 までを読んでくる。 前回の小テスト
3	④口腔の機能 【キーワード】摂食嚥下		予習 教科書 P22～P27 までを読んでくる。 前回の小テスト
4	2 章 う蝕と歯周病の基礎知識 ①口腔内の付着物・沈着物 【キーワード】獲得被膜・白質・食物残渣	講義	【予習】 教科書 P 28～P29 までを読んでくる。 前回の小テスト
5	①口腔内の付着物・沈着物 【キーワード】プラーク・歯石・色素沈着・舌苔	講義	【予習】 P 29～P 31 を読み、分からない語句を書き出す。 前回の小テスト
6	②う蝕 【キーワード】う蝕とは	講義	【予習】 教科書 P 32～P37 までを読んでくる。 前回の小テスト
7	③歯周病 【キーワード】歯周病とは	講義	【予習】 教科書 P 37～P43 までを読んでくる。 前回の小テスト

8	定期試験	筆記試験	【復習】 今までの総復習
---	------	------	-----------------

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2編版」(医歯薬出版) パワーポイント
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	歯周病予防法Ⅰ、Ⅱ・う蝕予防法Ⅰ、Ⅱ・歯周療法学・保健指導論Ⅰ、Ⅱ
成績評価の方法	小テスト 定期試験 出欠席 課題提出状況
その他 受講生への要望等	顎模型 歯根模型 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2編版」 ノート 色鉛筆を用いますので持参してください。

授業科目名	歯周病予防法 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	1 年
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得します。1 年次ではマネキンを使用した基礎実習で基本操作を身に着けます。		
授業科目の到達目標	1. 歯科予防処置の概念と内容を概説できる 2. 歯科予防処置の法的位置づけを説明できる 3. 歯周病予防を概説できる 4. 口腔の機能的な問題を把握できる 5. 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる 6. 歯周疾患の指標を説明できる 7. 画像から得られる情報を説明できる 8. 歯周病に関連する検査と指標を列挙できる 9. スケーラーの種類と使用目的を説明できる 10. プローブの種類と操作方法を説明でき操作できる 11. スケーラーの種類と使用目的を説明できる 12. マネキン上でシクルタイプスケーラーの操作ができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	1 章 歯科予防処置論 歯周病予防処置の必要性と位置づけ 予防の概念 P2～4	講義	
2	2 章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 検査項目 1) 歯 2) 歯肉 P134～136	講義	【小テスト】 前回の内容
3	検査項目 3) 舌 4) 口腔粘膜 5) 唾液 P136～139	講義	【小テスト】 前回の内容
4	3 章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 手用スケーラー 1) 構成 P185～186 教材の配布 マネキンの取り扱い	講義 演習	【小テスト】 前回の内容
5	3 章 歯科衛生介入としての歯科予防処置 手用スケーラー 2) 基本設定 P186～190	講義	【小テスト】 前回の内容
6	手用スケーラー 3) スケーラーの種類と操作方法 (1) シクルスケーラー P190～192	実習	【小テスト】 前回の内容
7	ミラーテクニック P220～222 エキスポローラーの操作 P139～140	講義	【小テスト】 前回の内容
8	口腔内観察 マネキン実習 ミラーテクニック エキスポローラーの操作 スケーリング	実習	【小テスト】 前回の内容

9	マネキン実習 下顎前歯部 唇側 シックルスケラーによるスケーリング	実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 実習記録
10	マネキン実習 下顎前歯部 舌側 シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
11	マネキン実習 上顎前歯部 頬側 シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
12	マネキン実習 上顎前歯部 口蓋側 シックルスケラーによるスケーリング	実習	【課題】 実習記録
13	マネキン実習 スケーリング確認 試験対策		
14	実技試験	実技試験	
15	中間試験	筆記試験	
16	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 7) 歯周ポケット 8) 歯の動揺度 P144～151	講義	【小テスト】 前回の内容
17	マネキン実習 プロービング、動揺度 歯周組織検査の読み取り方	実習	【小テスト】 前回の内容 【課題】 実習記録
18	白歯部のスケーリング基本操作 マネキン実習 下顎右側白歯部頬側 シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【課題】 実習記録
19	マネキン実習 下顎右側白歯部舌側 シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【課題】 実習記録
20	マネキン実習 下顎左側白歯部頬側シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【課題】 実習記録
21	マネキン実習 下顎左側白歯部舌側シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【課題】 実習記録
22	マネキン実習 上顎右側白歯部頬側シックルスケラーによるスケーリング	講義 実習	【課題】 実習記録

23	マネキン実習 上顎右側臼歯部口蓋側シックルスケーラーによるスケーリング		【課題】 実習記録
24	マネキン実習 上顎左側臼歯部頬側シックルスケーラーによるスケーリング		【課題】 実習記録
25	マネキン実習 上顎左側臼歯部口蓋側シックルスケーラーによるスケーリング		【課題】 実習記録
26	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 2) 歯周疾患の指数 P161～167	講義 実習	【小テスト】
27	2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 2.写真・画像 3.歯周病に関する検査	講義	【課題】 実習記録 【小テスト】
28	実技試験	実技試験	
29	マネキン実習 シックルスケーラーによる臼歯部スケーリング		
30	定期試験 ・試験前質疑応答 30分 ・筆記試験 60分	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・保健指導論（第2版）
参考書・資料等	微生物学 口腔解剖学
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論
この授業科目から発展する主な科目	歯周病予防法Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：実技試験、定期試験 評価対象：定期試験、実技試験、出席状況、課題
その他 受講生への要望等	歯周組織の仕組みが理解できていないと、イメージが出来ません。付着物、沈着物の特徴もしっかり復習しておいてください。 基本を学びますので欠席のないようにしてください。

授業科目名	う蝕予防法 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	前期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	う蝕予防処置は歯科衛生士の三大業務の中の一つの歯科予防処置の中であり、重要な業務であります。 う蝕発生や進行のメカニズムを理解し、歯科衛生士として人々の歯、口腔の健康の維持・増進をさせるためにう蝕予防の専門的な知識、技術を学びます。		
授業科目の到達目標	1. う蝕の発生・原因について理解する 2. う蝕の進行及び進行度の分類について理解する 3. フッ化物の基礎知識が理解できる 4. フッ化物応用方法の理解ができ、説明できる 5. う蝕活動性試験の意義・条件・目的を理解する 6. う蝕活動性試験の種類を理解し、説明できる 7. 小窩裂溝填塞法を理解し、術式を理解する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	う蝕とは・う蝕の分類・発生のメカニズムについて	講義	
2	う蝕の原因・う蝕の予防レベル	講義	う蝕の進行・分類について 予防レベル・確認テスト
3	食品とう蝕発生 糖質の分類・誘発性・代用甘味料について	講義・演習	代用甘味料の食品持参 プリント提出・確認テスト
4	フッ化物の応用 フッ化物歯面塗布について	講義	
5	フッ化物の応用 フッ化物洗口について	講義	
6	フッ化物の応用 フッ化物配合歯磨剤について	講義	
7	フッ化物の毒性と急性中毒 悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出法について	講義	フッ化物応用によるう蝕予防法についての
8	フッ化物洗口でのフッ素量・フッ化ナトリウム量 算出方法について	講義	
9	フッ化物応用 悪心嘔吐発現算出の復習 確認テスト	講義	悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出法の小テスト

10	小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）	講義	
11	う蝕活動性試験① 意義、条件、目的	講義	
12	う蝕活動性試験② う蝕活動性試験の種類について 次回実習についての説明	講義	
13	う蝕活動性試験③ RDテスト実習	講義・実習 実験室	う蝕活動性試験について 実習日誌の提出
14	う蝕予防法Ⅰのまとめ・振り返り・復習	講義	
15	定期試験	試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本「歯科予防論・歯科保健指導論」／医歯薬出版
参考書・資料 等	「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論、口腔衛生学、公衆衛生学、保健指導論、臨床実習指導
この授業科目から発展する主な科目	保健指導論
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象及び配分：試験 8 割、授業態度 1 割、小テスト・提出物 1 割
その他 受講生への要望等	配布プリント、小テストのファイリングをきちんと行ってください。 提出物の期限を守り、授業態度を正してください。

授業科目名	保健指導論 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	60 回
単 位 数	4 単位	単位時間数	120 時間
授業科目の概要	歯科医療に従事する者として最も基礎となる科目です。 口腔の構造や機能を理解し、口腔の健康を対象者自身が考え、より良い健康の為にどのように行動したら良いかの働きかけをする業務です。 1 年生前期では主に基礎となる口腔の働きや、毎日欠かすことのできない歯磨き法、食生活指導の前提となる栄養について学んでいきます。		
授業科目の到達目標	1. 歯科保健指導の概要と目的を理解する 2. 口腔の構造や機能を理解する 3. 食生活指導の概要を知る 4. 栄養素の種類と働きを知る 5. 口腔清掃の手段やその道具について理解する 6. 各種口腔清掃方法を行うことができる 7. 国民の健康と栄養の状況を把握できる 8. 食品とう蝕活動性の 関係を説明できる 9. 歯科衛生過程の進め方を理解できる 10. 保健行動支援のための基礎知識が理解できる 11. 歯科衛生アセスメントの流れを説明できる 12. 歯科衛生計画を书面化できる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科保健指導の概要 歯科保健指導の必要性 P2～3	講義	
2	歯科保健指導の定義 「歯科衛生士法」における歯科保健指導の位置づけ P4	講義	【小テスト】 前回の授業内容
3	歯科衛生業務 歯科要望処置 歯科予防処置 う蝕予防法処置 P4～6	講義	【小テスト】 前回の授業内容
4	歯科保健指導 健子教育、行動科学、行動変容 P4～6	講義	【小テスト】 前回の授業内容
5	健康の概念 健康の定義、プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション P8～10	講義	【小テスト】 前回の授業内容

6	健康日本 21（第二次） 予防の概念	P11~13	講義	【小テスト】 前回の授業内容
7	口腔・口腔周囲の構造① 歯、歯肉、舌顎関、顎関節、唾液腺	P16~18	講義	【小テスト】 前回の授業内容
8	口腔・口腔周囲の構造② 歯、歯肉、舌顎関、顎関節、唾液腺	P16~18	講義	【小テスト】 前回の授業内容
9	口腔・口腔周囲の構造③ 歯周組織 歯肉、遊離歯肉、歯根膜、歯槽骨、セメント質	P18~21	講義	【小テスト】 前回の授業内容
10	口腔・口腔周囲の構造④ 歯肉上皮の解剖的分類の作図実習	P18~21	実習	【小テスト】 前回の授業内容
11	歯冠と歯根の形態① 永久歯 乳歯	P21~22	講義	【小テスト】 前回の授業内容
12	歯冠と歯根の形態② 歯根模型配列実習	P21~22	実習	【小テスト】 前回の授業内容
13	口腔衛生管理に関わる指導① 歯ブラシの構造 歯磨剤の成分	P264~267	講義	【小テスト】 前回の授業内容
14	歯ブラシの構造 歯磨剤の成分 グループワーク	P264~267	GW	【小テスト】 前回の授業内容
15	口腔清掃① ブラッシング法 模型実習		講義 実習	【小テスト】 前回の授業内容
16	口腔清掃② ブラッシング法 模型実習		実習	【小テスト】 前回の授業内容
17	清掃補助用具の使用方法① 模型実習 デンタルフロス 歯間ブラシ タフトブラシ	P274~277	講義 実習	【小テスト】 前回の授業内容 【課題】 実習記録
18	清掃補助用具の使用方法② 模型実習 粘膜ブラシ 舌ブラシ 義歯用ブラシ	P274~282	実習	【課題】 実習記録
19	洗口液・洗口剤 種類 基本的な使用方法	P284~285	実習	【課題】 実習記録
20	保湿剤 種類 基本的な使用方法	P282~284	講義	【予習】 教科書を読んでくる
21	各種ブラッシング法 実技試験		実技試験	【小テスト】 前回の授業内容
22	各種ブラッシング法 実技試験		実技試験	【小テスト】 前回の授業内容

23	口腔の機能 摂食嚥下 発声、構音機能 唾液分泌機能 P22~25	講義	【小テスト】 前回の授業内容
24	摂食嚥下の仕組み① 先行期～食道期 P25~27	講義	【課題】 前回の授業内容
25	摂食嚥下の仕組み② 先行期～食道期 P25~27	講義	【小テスト】 前回の授業内容
26	摂食嚥下の仕組み③ 先行期～食道期 P25~27	講義	
27	口腔周囲の構造、歯周組織の復習① P16~21	講義	【小テスト】 前回の授業内容
28	口腔周囲の構造、歯周組織の復習① P16~21	講義	【小テスト】 前回の授業内容
29	前期のまとめ	講義	【小テスト】 前回の授業内容
30	中間試験	試験	
31	国民の健康と栄養の現状 国民栄養の現況 高齢者の低栄養 P44~46	講義	
32	エネルギー摂取量と栄養素摂取量 近年の食生活の特徴 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組み P46~50	講義	【小テスト】 前回の授業内容
33	栄養素の機能① 栄養素の働き P51~52	講義	【小テスト】 前回の授業内容
34	栄養素の機能② 糖質（炭水化物） 脂質 P53~56	講義	【小テスト】 前回の授業内容
35	栄養素の機能③ タンパク質 ビタミン P56~61		【小テスト】 前回の授業内容
36	栄養素の機能④ ミネラル 水 食物繊維 P61~64	実習	【小テスト】 前回の授業
37	栄養素の消化・吸収 消化作用の仕組みと種類 P65~68		【小テスト】 前回の授業
38	食事摂取基準 食品のう蝕誘発性 P69~72	講義	【小テスト】 前回の授業
39	代用甘味料 う蝕予防のための食品摂取方 P72~79	演習	【小テスト】 前回の授業内容
40	代用甘味料 う蝕予防のための食品摂取方法 グループワーク	GW	【小テスト】 前回の授業内容

41	歯周病と食生活 咀嚼と食品 食生活と食品 P79~84	講義	【小テスト】 前回の授業内容
42	特別用途食品と保健機能食品 P84~86	講義	【小テスト】 前回の授業内容
43	行動変容に関連する理論① 健康信念モデル 学習理論（オペラント条件づけ） 社会的認知理論（自己肯定感） P88~91	講義	【小テスト】 前回の授業内容
44	行動変容に関連する理論② 行動変容ステージモデル P91~93	講義	【小テスト】 前回の授業内容
45	行動変容を促す理論と実践① ストレスとストレスコーピング 認知行動療法 P93~95	講義、実習	【課題】 前回の授業内容
46	行動変容を促す理論と実践② 動機づけ面接 P96~98	講義、実習	【課題】 実習記録
47	歯科衛生過程の概要① 6つの構成要素 クリティカルシンキング 臨床推論 P100~103	講義	【小テスト】 前回の授業内容
48	歯科衛生士の視点による問題解決① ニード理論 ヒューマンニーズ概念モデル 国際機能分類（ICF） P103~105	講義、演習	【小テスト】 前回の授業内容
49	歯科衛生士の視点による問題解決② MIDORI モデル 動機づけ面接 クライアント・セルフケア・コミットメントモデル P106~108	実習	【小テスト】 前回の授業内容
50	歯科衛生アセスメント① 情報収集 種類 ツール 解釈・分析 P108~110	講義	【小テスト】 前回の授業内容
51	歯科衛生診断 歯科衛生診断 情報の統合 診断句 原因句 P110~115	講義	【小テスト】 前回の授業内容
52	歯科衛生計画 ゴール目標 目標設定のプロセス 立案 P115~117	実習	【小テスト】 前回の授業内容
53	歯科衛生介入① 「SOAP」形式による実施記録 P117~118	講義・演習	【小テスト】 前回の授業内容
54	歯科衛生介入② 「SOAP」形式による実施記録 P117~118	講義・演習	【課題】 実習記録
55	歯科衛生評価 記録の書面化 P118~119	演習	【課題】 実習記録
56	歯科衛生過程の演習①	演習	【課題】 実習記録

57	歯科衛生過程の演習②	演習	【課題】 実習記録
58	歯科衛生過程の演習③	演習	【課題】 課題提出
59	歯科衛生過程の演習④	演習	【課題】 課題提出
60	筆記試験	筆記試験	

使用テキスト	最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」第2版
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	予防システム論 口腔衛生学
この授業科目から発展する主な科目	予防システム論 歯科保健指導論Ⅱ う蝕予防Ⅰ
成績評価の方法	筆記試験（80点）、実技試験（10点）、提出物（10点） 欠席、授業態度（減点評価）
その他 受講生への要望等	忘れ物のないようにしっかりと準備をしましょう。 課題等の提出期限は必ず守りましょう。

授業科目名	歯科診療補助法 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	1 年
年 次	1 年次	授業回数	30 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	60 時間
授業科目の概要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を修得します。		
授業科目の到達目標	1. 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる 2. 医療安全の知識を身につけ、偶発時の適切な対処法を知る 3. 感染予防の知識を身につけ、標準予防策を実行できる 4. 医療安全、感染予防に留意し、共同動作を行うことができる 5. 材料の特徴を理解し、印象採得ができる 6. 材料の特徴を理解し、石膏模型の作製ができる 7. 材料の特徴を理解し、セメント練和ができる 8. 材料の特徴を理解し、安全に気をつけて印象採得ができる		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	歯科診療補助の概念（P2～6） ①歯科診療補助の法的解釈 ②診療補助業務と他の医療職種 【キーワード】診療補助	講義	教本を見て予習をしておくこと
2	医療安全（P7～12） ①医療安全とは ②医療事故とインシデント ③医療安全対策 【キーワード】インシデント・アクシデント	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
3	感染予防（P18～21） ①感染症と感染予防対策 ②標準予防策（スタンダードプレコーション） ③リスクアセスメント 【キーワード】スタンダードプレコーション・リスクレベル	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容
4	感染予防対策（P22～32） ①個人防護具 ②環境感染予防対策 ③手指衛生 【キーワード】 ・防護具・手洗い	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容
5	滅菌・消毒・洗浄（P32～43） ①滅菌・消毒・洗浄の定義 ②滅菌法	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容

	③消毒法 ④洗浄法 医療廃棄物（P44～47） ①廃棄物の分類、処理方法 【キーワード】 洗浄、消毒、滅菌、マニフェスト		
6	歯科診療室の基礎知識（P50～56） （機器：P6～20） ①歯科診療室の環境・設備 ②歯科診療所における受診の流れ 【キーワード】 歯科用チェア	講義	【小テスト】 ・ 前回の授業内容
7	実習、実験室の使い方 ①実習の準備、片付けについて ②歯科用チェアの取り扱い ③消毒液の作り方 ④滅菌の使い方	実習	【小テスト】 ・ 前回の授業内容 【課題】 ・ 実習記録
8	共同動作（P63～67）（機器：P2～40） ②共同動作の概念 ③術者、補助者、患者のポジショニング 【キーワード】 共同動作	講義	【小テスト】 ・ 前回の授業内容
9	補助者の役割（P67～71） ①ライティング ②フォーハンドットデンティストリー ③器具の受け渡し 【キーワード】 フォーハンドットデンティストリー	講義	【小テスト】 ・ 前回の授業内容
10	バキュームテクニック（P71～76） ①模型実習 【キーワード】 白後三角、禁忌部位、舌根部、軟口蓋、喉頭部	講義 実習	【小テスト】 ・ 前回の授業内容 【課題】 ・ 実習記録
11 12	ライティング、バキュームテクニック （P67、71～76） ①相互実習 【キーワード】 白後三角、禁忌部位、舌根部、軟口蓋、喉頭蓋部	実習	【課題】 ・ プリント 【課題】 ・ 実習記録
13 14	実技試験 ①バキューム ②ライティング 【キーワード】 バキュームテクニック ライティング	実技試験	
15	中間試験 ①試験前質疑応答 30分 ②筆記試験 60分	筆記試験	【休暇中の課題】 ・ 前期の復習プリント ・ 過去問
16	前期の振り返りテスト、解説 歯科材料の基礎知識（P96～98）	講義	【課題の確認テスト】 ・ 前期の復習

	(材料：P4～23) ①歯科材料の特徴 ②歯科材料の保管 【キーワード】 ・医薬品医療機器等法		
17	印象材 (P193～213) (材料：P43～58) ①印象採得について ②印象材の種類、特徴 【キーワード】 弾性、非弾性・可塑性、可逆性	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
18	アルジネート練和実習 (P195～201) ①アルジネート印象材の特徴 ②アルジネート印象材の取扱い ③アルジネート印象～材の練和方法 【キーワード】 ハイドロコロイド印象材・練和 計量、攪拌、練和、脱泡、盛り上げ、圧接	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
19 20	印象採得模型実習 (アルジネート印象材) ①全額印象採得 ②片顎印象採得 【キーワード】 ハイドロコロイド印象材・練和 計量、攪拌、練和、脱泡、盛り上げ、圧接	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
21	石膏について (P214～221) (材料：P56～71) ①石膏の種類、特徴 ②石膏の取扱い ③石膏の練和方法 【キーワード】 模型・混水比	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
22 23	石膏注入模型実習 (普通石膏、硬石膏、超硬石膏) ①片顎印象体 ②石膏の重さの違い、練和の違いを知る 【キーワード】 模型・混水比	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
24	合着・接着の補助 (P222～235) (材料：P72～89) ①合着材、接着剤の基礎知識 ②使用機器 ③練和の基本 【キーワード】 練和	講義	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
25	合着・接着の補助 (材料：P77～78) ①合着材、接着剤の種類、特徴 ②リン酸亜鉛セメント 【キーワード】 機械的嵌合力・歯髄刺激性	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
26	合着・接着の補助 (材料：P73～77) ①合着材、接着剤の種類、特徴	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容

	②酸化亜鉛ユージノールセメント ③カルボキシレートセメント ④ガラスアイオノマーセメント 【キーワード】 接着性・歯髄鎮静効果・フッ素徐放性		【課題】 ・実習記録
27	合着・接着の補助（材料：P 7 9～8 2） ①合着材、接着剤の種類、特徴 ②接着性レジンセメント 仮着用セメント（材料：P 1 2 5～1 2 7） ①仮着用セメントの種類と性質 【キーワード】 接着性・仮着	実習	【小テスト】 ・前回の授業内容 【課題】 ・実習記録
28 29	実技試験 ①セメント練和 ②アルジネート印象材練和 【キーワード】 合着材・接着剤、 印象材・練和 計量、攪拌、練和、脱泡、盛り上げ、圧接	実技試験	
30	定期試験 ①試験前質疑応答 30 分 ②筆記試験 60 分	筆記試験	

使用テキスト	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 最新歯科衛生士教本 歯科材料 最新歯科衛生士教本 歯科機器
参考書・資料 等	ポケットマニュアル
この授業科目の前提となる主な科目	実習科目：歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目：歯科衛生士概論
この授業科目から発展する主な科目	実習科目：歯科保健指導論、歯周病予防法、う蝕予防法 講義科目：救急蘇生法、臨床検査法
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象および配分：試験（80 点）、小テスト・課題（20 点） 欠席状況、授業態度（減点評価）
その他 受講生への要望等	課題は提出期限を厳守する事（過ぎた場合は減点） 医療に携わるベースとなる教科です。 実習をやむを得ず欠席した場合、必ず補講を行いますので申し出てください。 なるべく休まないでください。

授業科目名	実習指導 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	歯科医療現場に相応しい態度で臨地・臨床実習に臨むため、歯科医療に携わる者としての心構えを学びます。		
授業科目の到達目標	1. 医療現場にふさわしい身だしなみができる 2. 社会の一員としての協調性や基本的態度を身につける 3. 対象者の守秘義務を遵守できる 4. 感染予防対策の目的を理解し、方法を習得する 5. 患者の主訴を把握し、治療の流れを考えることが出来る 6. 患者とのコミュニケーションを学び、実践する		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	臨地・臨床実習について・実習生としての心構え 【キーワード】臨床、臨地、実習態度、挨拶、言葉使い	講義	目指す歯科衛生士について考えて来る
2	医療人としての身だしなみ・白衣の着方 【キーワード】清潔、不潔	講義	【小テスト】 前回の授業内容
3	実験室、実習室の使い方	講義	【小テスト】 前回の授業内容
4	実習日誌について 実習評価基準について	講義	【小テスト】 3 文日記
5	感染予防対策 【キーワード】標準予防策	講義	【小テスト】 前回の授業内容
6	医療事故について 【キーワード】インシデント、アクシデント	講義	【小テスト】 前回の授業内容
7	治療の流れ・器具について(う蝕の治療)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
8	治療の流れ・器具について(補綴について)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
9	治療の流れ・器具について(外科処置について)	講義	【小テスト】 前回の授業内容
10	電話対応の仕方 【キーワード】尊敬語、謙譲語、丁寧語 実習施設発表	講義 実習先へ電話連絡	【小テスト】 前回の授業内容 施設の下調べ
11	オリエンテーションについて		
12	臨床実習事前相互実習①	実習	【小テスト】 前回の授業内容

13	臨床実習事前相互実習②	実習	【小テスト】 前回の授業内容
14	実習振り返り 面談	レポート 自己評価	
15	実習報告会 ・実習の振り返り、自己評価 45 分 ・グループ発表 45 分	発表	

使用テキスト	実習の手引き
参考書・資料 等	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 ポケットマニュアル
この授業科目の前提 となる主な科目	歯科衛生士概論 コミュニケーション学
この授業科目から 発展する主な科目	臨地・臨床実習 I
成績評価の方法	評価時期：定期試験 評価対象および配分：発表、自己評価表(60 点)・小テスト(20 点)・課題提出(10 点)・ 出席状況(10 点)
その他 受講生への要望等	臨床実習に関する内容のため、重要な連絡も講義時に行います。欠席のないようにしてください。 欠席した場合は必ず内容を聞きに来てください。言葉遣いや挨拶、返事については日ごろから気を 付けて生活してください。

授業科目名	臨地・臨床実習 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	
単位数	1 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	学内で学んだ知識・技術・態度をもとに、歯科医療現場で体験実習し歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学び、医療従事者にふさわしい人格を育てます。 1 年次は基本的な接遇、態度知識を身につけ 2 年次、3 年次の実習につなげていきます。		
授業科目の到達目標	1. 医療人としての清潔な身だしなみを整え、臨床実習に臨むことが出来る 2. 時間や期限を守ることが出来る 3. 明るくさわやかに挨拶が出来る 4. 対象者に応じて正しい敬語を使う 5. 何事に対しても積極的に行動できる 6. 報告・連絡・相談が出来る 7. 健康管理ができる 8. 歯科衛生士の役割を理解出来る 9. 歯科診療の実習を節度ある態度で臨むことが出来る		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
	実習の手引き参照 ・歯科医院について学ぶ - 受付 - 環境整備 - 器材管理 - 薬剤管理 ・医療人としての姿勢を学ぶ - 遅刻・早退・欠席をしない - 清潔な身だしなみ - 言葉遣いや態度 - 報告・連絡・相談 ・患者誘導 ・基本セットの準備、片付け、洗浄、消毒、滅菌 ・ユニットの清拭 ・アルジネート印象材練和(手練り) ・合着、仮着用セメントの練和 ・バキューム操作	歯科医院での臨床実習	臨地・臨床実習日誌 実習課題 実習後振り返り

使用テキスト	
参考書・資料 等	新人歯科衛生士・デンタルスタッフ ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提となる主な科目	実習指導 I

この授業科目から発展する主な科目	臨地・臨床実習Ⅱ、Ⅲ
成績評価の方法	実習態度、実習日誌、実習評価表をもとに総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	校外実習のため、指導者の指示に従い実習を行うことになります。学校で学んだ知識や技術をもとに実践的な内容を身につけます。歯科衛生士としての現場に出るという意識をもって臨んでください。

授業科目名	特別活動 I		
実務経験講師	○	実務経験	歯科衛生士
開講年度	2022 年度	学 期	通年
年 次	1 年次	授業回数	23 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	各種行事やセミナーを通じ、職業人としての心構えを育み、協調性を身に着けます。		
授業科目の到達目標	1. 職業人としての常識が理解出来る 2. 学校行事を通して協調性を身に着ける 3. 式典への出席を通して礼儀作法を身に着ける 4. 医療人としての清掃方法を身に着ける 5. 歯科衛生士を目指すモチベーションを高める		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	入学式	学校行事	
2	校内の使用法、実験室・実習室の使い方、清掃指導	講義	
3	GW 課題テスト	試験	
4	GW 課題テスト	試験	
5	防災訓練	学校行事	
6	スポーツ大会	学校行事	
7	うづま祭準備	学校行事	
8	うづま祭	学校行事	
9	夏季課題確認テスト	試験	礼法を身につける
10	夏季課題確認テスト	試験	
11	決意式	学校行事	
12	職業とキャリア	講義	
1.3	職業とキャリア	講義	
14	年金・税金セミナー	講義	
15	冬期課題確認テスト	試験	
16	冬期課題確認テスト	試験	
17	交流会①	学校行事	
18	交流会②	学校行事	
19	国家試験対策①	試験	
20	国家試験対策②	試験	
21	国家試験対策③	試験	

22	試験解説①	解説	
23	試験解説②	解説	

使用テキスト	歯科衛生士国家試験 完全攻略本
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	国家試験対策
この授業科目から発展する主な科目	歯科医療接遇 コミュニケーション学
成績評価の方法	出席、身だしなみ、態度など総合的に判断します。
その他 受講生への要望等	社会に出る皆さんにとって身になる教科です。高い意識をもって臨みましょう。すべて1度きりの体験となりますので欠席しないようにしてください。